

3月の天候

2006年（平成18年）3月の特徴：

- 気温の変動大きい** 上旬には南から暖かな空気が入り高温、中旬には冬型となって低温、と気温の変動が大きかった。月平均気温は東・西日本、南西諸島では平年並であったが、北日本では寒気の影響は小さく、月平均気温は高くなかった。
- 北日本、東日本・日本海側、南西諸島で降水量が多かった** 上・下旬に低気圧、中旬や月末に冬型の気圧配置の影響を受けた北日本、東日本・日本海側や、下旬に低気圧や前線の影響の大きかった南西諸島で降水量が多くなった。
- 北日本は日照時間がかなり少なく、南西諸島では多かった** 低気圧が北日本付近を通過することが多く、北日本では日照時間がかなり少なかった。南西諸島では、上・中旬に高気圧に覆われることが多かったことから日照時間は多かった。
- 月末近くに広範囲で雪** 28日から29日にかけ、日本付近を通過した低気圧が北海道付近で発達、北日本では風雪が強く、西日本ではサクラの開花後の季節外れの降雪となった。

1 概況

上旬には日本海の低気圧に向かって南から暖気が入ったり、高気圧に覆われて晴れて気温が上がるなど、気温の高い日が多かったが、中旬には低気圧が東方海上で発達、一時冬型の気圧配置となり、所によっては大雪となったほか、東日本以西では気温が平年を下回るなど、気温の変動が大きかった。28日から29日にかけ、日本の北と南を通過した低気圧が北海道付近で発達し、北日本では風雪が強く荒れた天気となり、また、広く寒気が入ったことから、西日本ではサクラの開花後の季節外れの降雪となった。

北日本と東日本・日本海側では、上・下旬には低気圧の影響を、中旬や月末には冬型の気圧配置の影響を受けたことで月降水量が多くなった。また、下旬に低気圧や前線の影響の大きかった南西諸島でも月降水量が多くなった。

低気圧が北海道付近や日本のすぐ北を通過することが多かったことから、北海道を中心に北日本では日照時間がかなり少なくなり、岩見沢、浦河（以上、北海道）で3月の月間日照時間の少ない記録を更新した。一方、上・中旬に高気圧に覆われることの多かった西日本・太平洋側、と南西諸島では日照時間が多く、屋久島（鹿児島県）で3月の月間日照時間の多い記録を更新した。

2 気温、降水量、日照時間等の気候統計値

(1) 平均気温

月平均気温は北日本では高かった。北海道では平年を2°C以上上回ったところがあり、釧路（北海道）では3月の月平均気温の最高値のタイ記録となった。一方、東日本から南西諸島に

かけては平年並だったが、寒暖の変動が大きかった。

(2) 降水量

月降水量は、北日本と東日本・日本海側、および南西諸島では多かった。北陸地方から近畿地方の日本海側ではかなり多く、平年の 150%以上となったところがあった。一方、東日本の太平洋側では少なく、西日本では平年並だった。

(3) 日照時間

月間日照時間は、北日本と東日本・日本海側では少なかった。特に、北海道ではかなり少なく、平年の 70%未満のところが多かった。岩見沢、浦河（以上、北海道）では 3 月の月間日照時間の最小値を更新した。一方、東日本の太平洋側と西日本の日本海側では平年並、西日本の太平洋側と南西諸島では多く、屋久島（鹿児島県）では 3 月の月間日照時間の最大値を更新した。

(4) 降雪・積雪

降雪の深さ（月合計）、月最深積雪とともに、北海道の一部や中国地方の日本海側などで多かつたほかは、平年並または少なかった。

地域平均平年差（比）と階級（2006 年 3 月）

	気温 平年差 ℃ (階級)	降水量 平年比 % (階級)	日照時間 平年比 % (階級)		気温 平年差 ℃ (階級)	降水量 平年比 % (階級)	日照時間 平年比 % (階級)	
北日本	0.9 (+)	127 (+) 日 129 (+)* 太 125 (+)	81 (-)* 日 74 (-)* 太 87 (-)*		北海道	1.2 (+)	135 (+) 日 136 (+) オ 130 (+) 太 138 (+)	69 (-)* 日 63 (-)* オ 73 (-)* 太 74 (-)*
東日本	0.2 (0)	94 (0) 日 145 (+)* 太 81 (-)	103 (0) 日 94 (-) 太 105 (0)		東北	0.5 (+)	117 (+) 日 123 (+) 太 112 (0)	98 (0) 日 92 (0) 太 102 (0)
西日本	-0.3 (0)	94 (0) 日 97 (0) 太 92 (0)	111 (+) 日 108 (0) 太 113 (+)		関東甲信	0.7 (+)	82 (-)	107 (0)
南西諸島	-0.3 (0)	121 (+)	128 (+)		北陸	-0.1 (0)	145 (+)*	94 (-)
					東海	-0.2 (0)	80 (-)	103 (0)
					近畿	-0.5 (-)	122 (+) 日 142 (+)* 太 115 (+)	102 (0) 日 92 (-) 太 105 (0)
					中国	-0.4 (0)	112 (0) 陰 132 (+) 陽 90 (0)	101 (0) 陰 99 (0) 陽 105 (0)
					四国	-0.4 (0)	87 (0)	108 (+)
					九州北部	-0.1 (0)	76 (-)	114 (+)
					九州南部	-0.6 (-) 本 -0.6 (-) 奄 -0.4 (0)	81 (0) 本 78 (0) 奄 95 (0)	132 (+)* 本 129 (+)* 奄 146 (+)*
					沖縄	-0.3 (0)	131 (+)	121 (+)

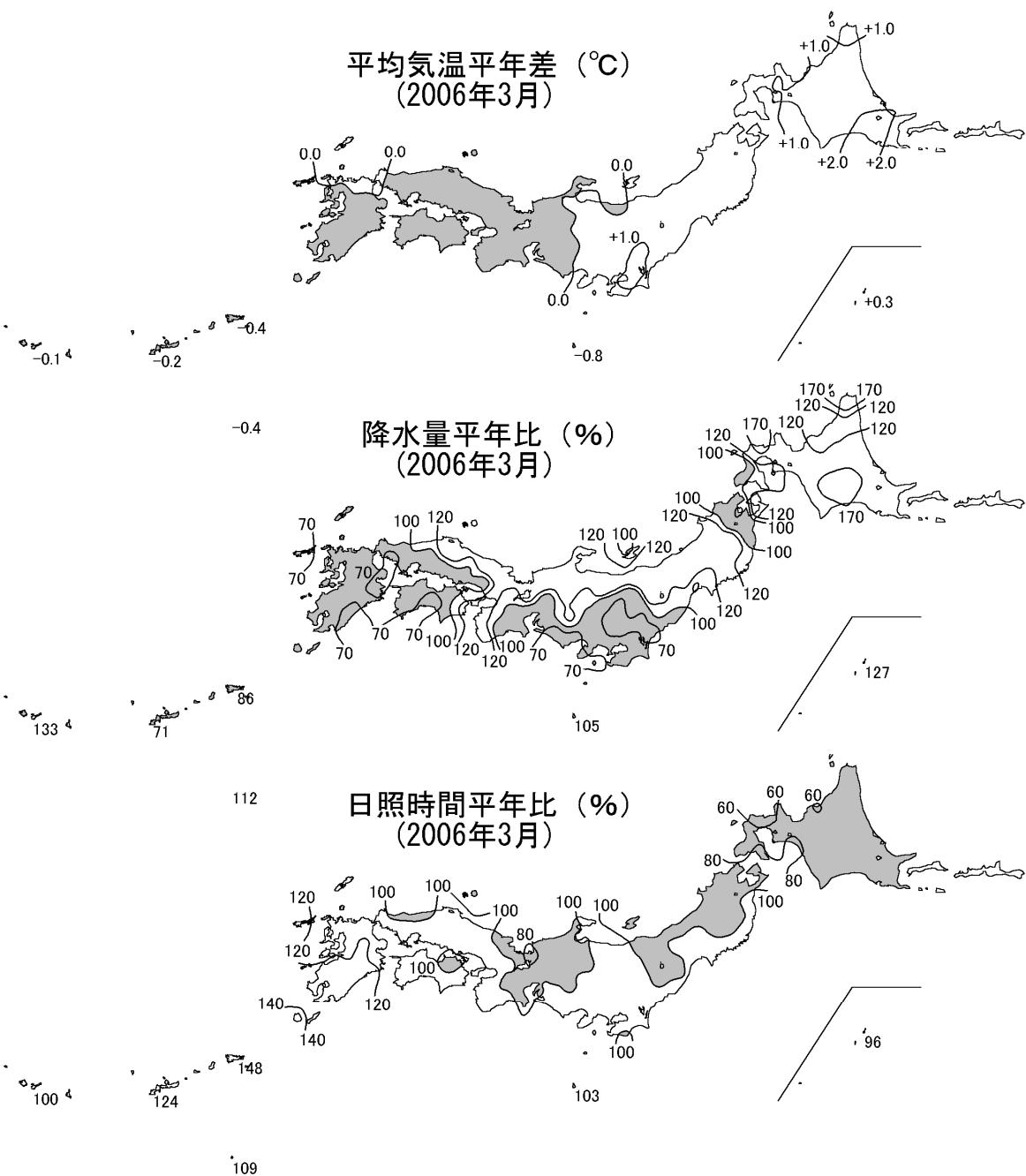
階級表示 (-):低い(少ない) (0):平年並 (+):高い(多い)

(*):かなり低い(少ない)、かなり高い(多い)を表す

地域表示 日:日本海側 陰:山陰 本:本土(九州南部)
オ:オホーツク海側 陽:山陽 奄:奄美
太:太平洋側

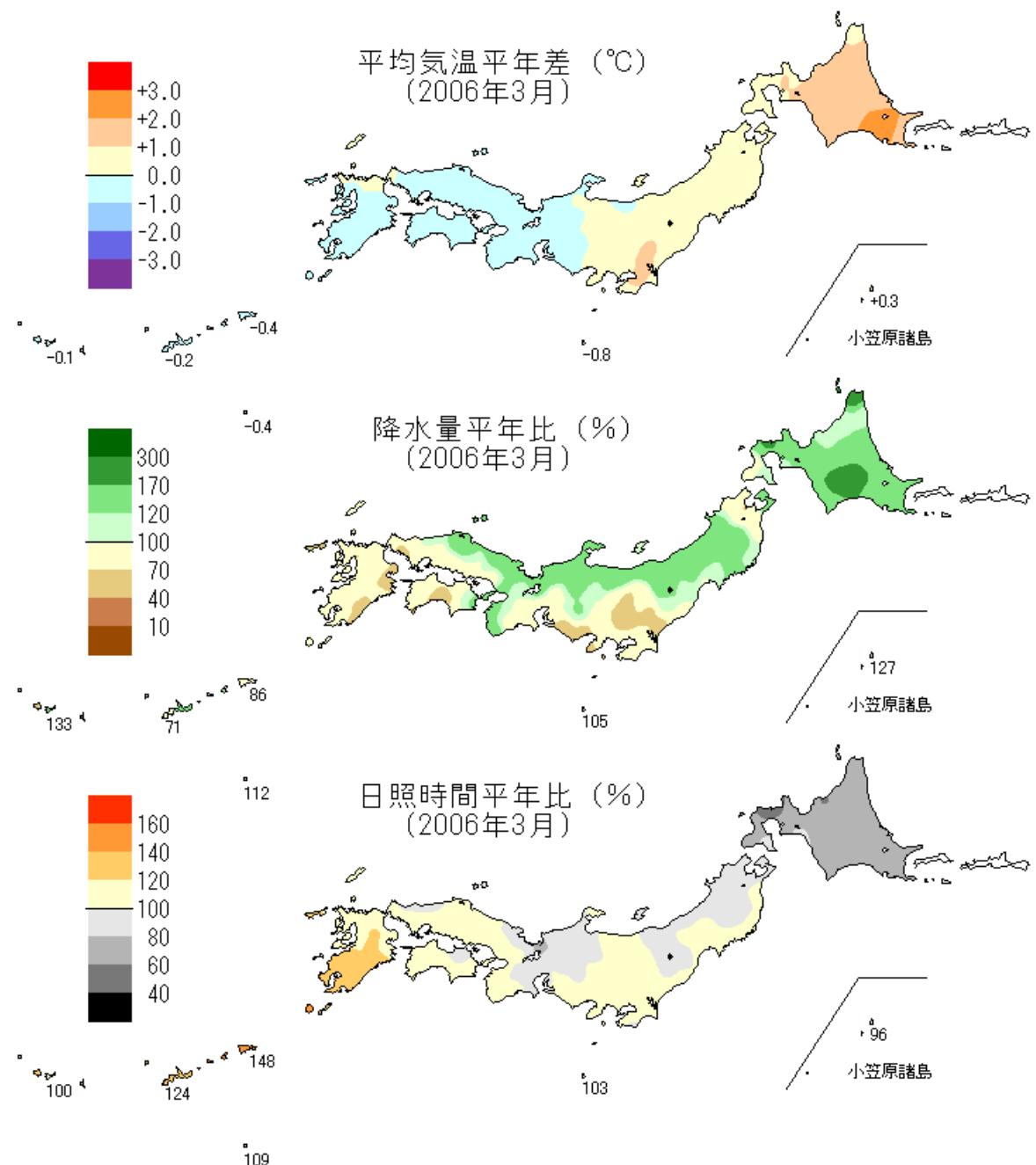
- (注)・基礎となるデータは全国の気象台・測候所等での観測値で、観測所数は 153 地点である。このうち、降雪の深さ、最深積雪については、観測を行っている 124 地点が対象である。
・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1971~2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が 10 個ずつになる）ように決めている。また、値が 1971~2000 年の観測値の下位または上位 10% に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

平年差（比）図（2006年3月）（等値線図）



注) 鮎影の部分は、平年値より低い（少ない）地域を示す。

平年差（比）図（2006年3月）



3 旬別の天候経過

上 旬：低気圧や前線が通り、天気は数日の周期で変わった。1日には南岸を通過した低気圧の影響で本州の広い範囲でまとまった量の雨となった。低気圧の通過後に寒気の入ることはあっても一時的で、晴れて気温が上がったり、日本海の低気圧に向かって南から暖気が入るなど、気温の高い日が多くかった。

旬平均気温は、北・東・西日本では高く、南西諸島は平年を上回ったものの平年並だった。

旬降水量は、全国的に多かった。

旬日照時間は、東日本日本海側、南西諸島で多かった。東日本太平洋側で少なく、北日本、西日本では平年並だった。

中 旬：11日に日本の北を通過した低気圧はその後発達し、日本列島に寒気を引き入れた。このため、日本海側の地方では所によつては大雪となつたほか、東日本以西の各地では気温が平年を下回つた。また、16日、19日には日本付近を低気圧が発達しながら通過、各地で強い風が吹き荒れた。

旬平均気温は、北日本では高く、東日本は平年並、西日本、南西諸島では低かった。

旬降水量は、北・東日本日本海側で多く、北・東日本太平洋側、西日本では平年並、南西諸島では少なかつた。

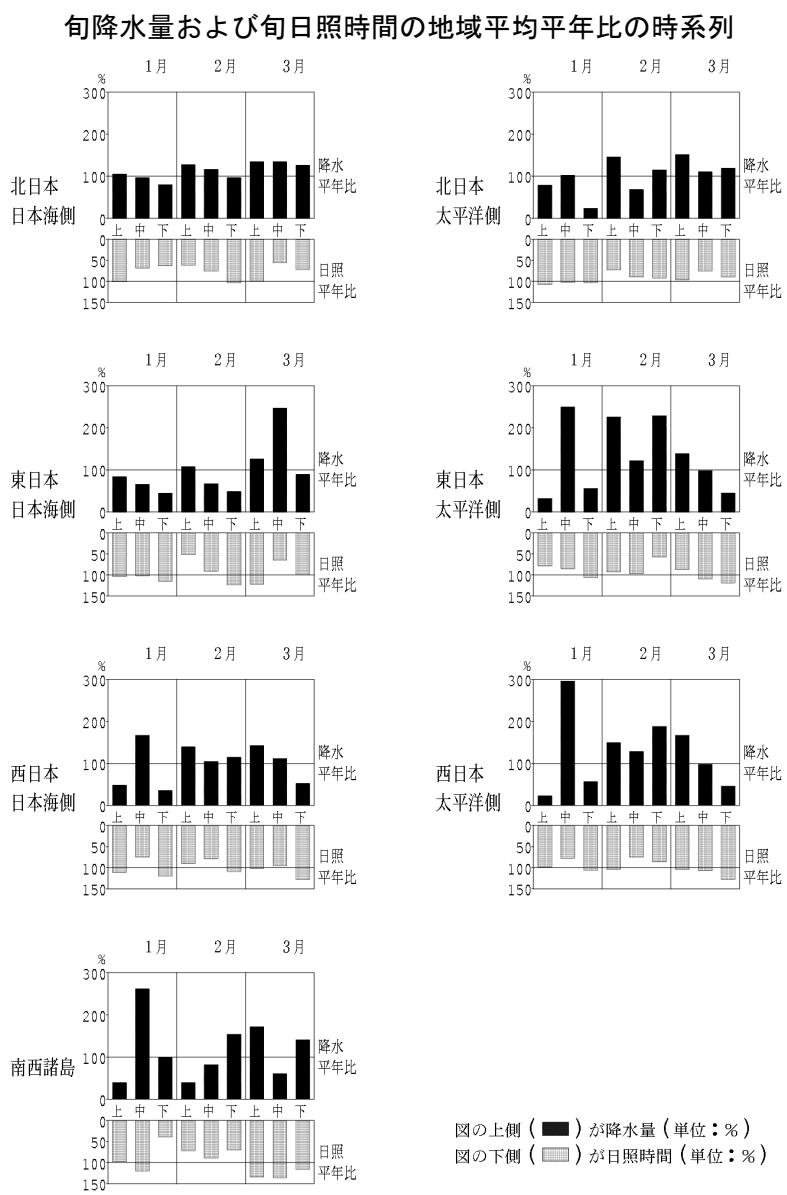
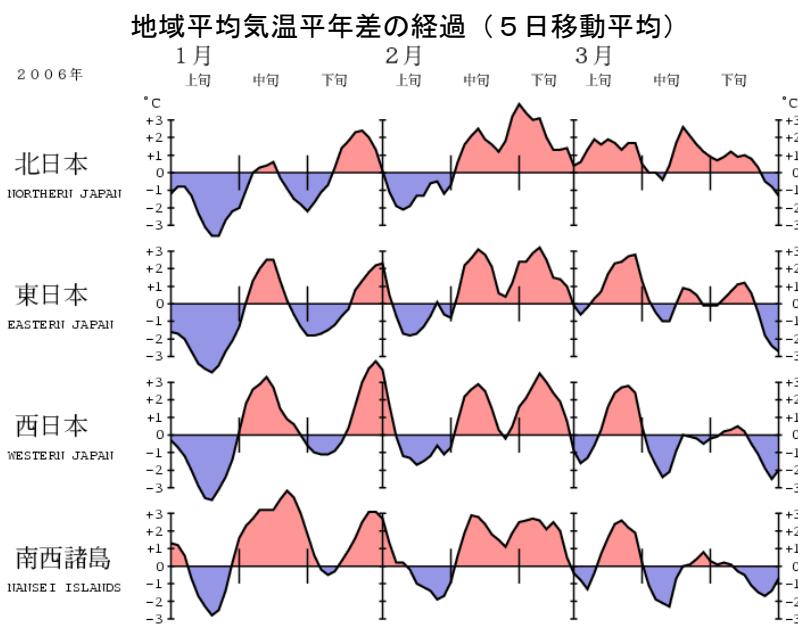
旬日照時間は、北日本、東日本日本海側で少なく、東日本太平洋側、南西諸島で多かった。西日本では平年並だった。

下 旬：日本付近を低気圧がたびたび通つた。このため、北日本では日照時間が少なかつた。また、南西諸島では降水量が多く日照時間が少なくなつた。本州では低気圧の影響は小さく日照時間は多かつた。28日から29日にかけ、日本の北と南を通過した低気圧が北海道付近で発達したことから、北日本では風雪が強く、また広く寒気が入つたため、29日には西日本でもサクラの開花後の季節外れの降雪となつた。月末の寒気の影響で、東日本以西では低温となつた。

旬平均気温は、北日本では平年並、東日本、西日本、南西諸島では低かった。

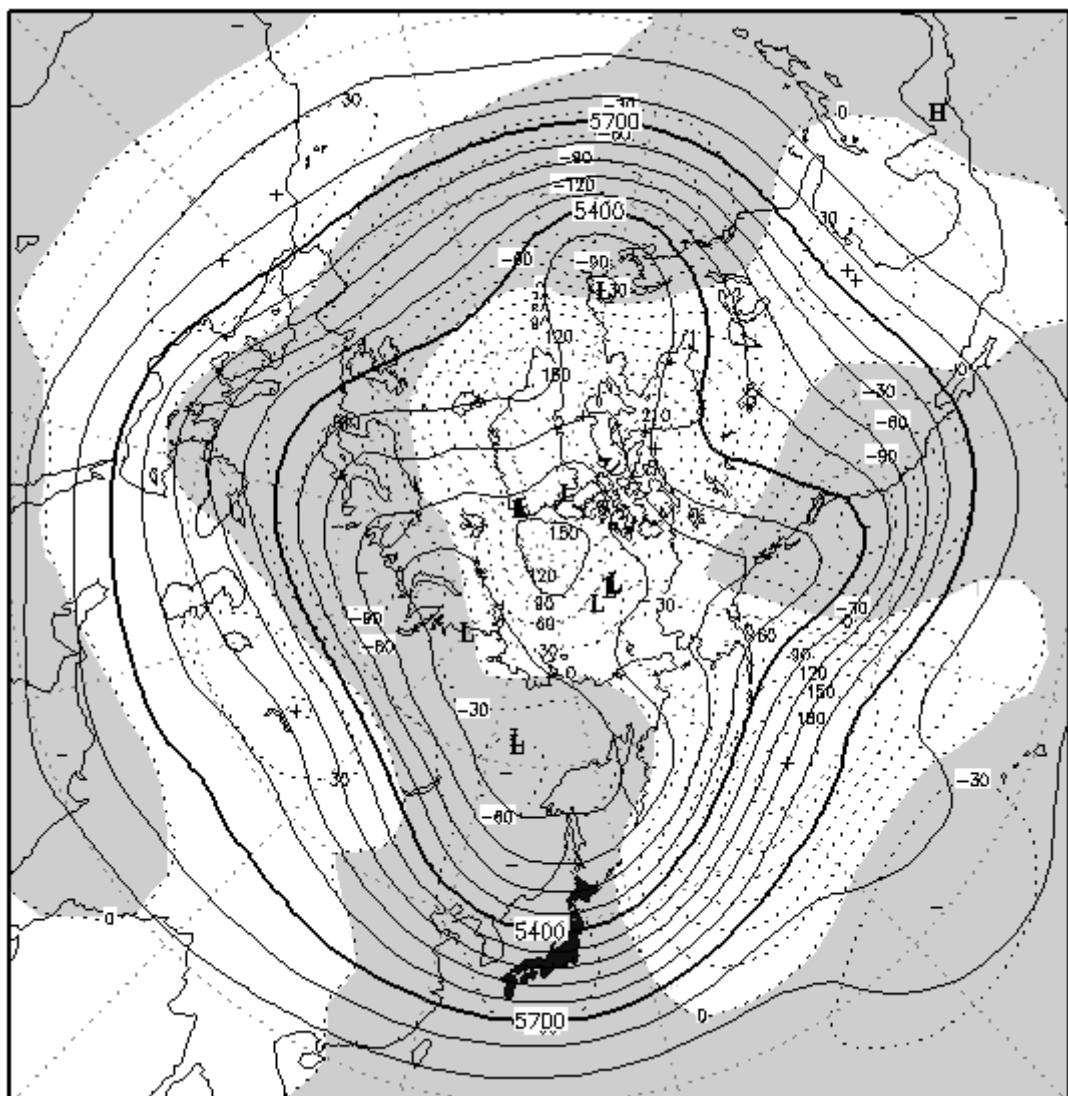
旬降水量は、北日本、南西諸島では多く、東日本日本海側では平年並、東日本太平洋側、西日本では少なかつた。

旬間日照時間は、北日本では少なく、東日本日本海側では平年並、東日本太平洋側、西日本、南西諸島では多かつた。



4 大気の流れの特徴

500hPa 天気図：極付近からグリーンランドにかけて正偏差、日本付近やヨーロッパなど 40～60°N 帯において負偏差と、極付近の寒気が中緯度帯に南下しやすい偏差パターンとなり、ヨーロッパや北米大陸北西部などでは強い寒気が入った。日本付近は中旬には強い寒気が南下したもの、月を平均すると、東方海上（太平洋上）がリッジ・正偏差で、日本付近へは持続的な寒気の流入はなく、気温も平年程度となった。



2006 年 3 月の 500hPa 高度・偏差（等値線間隔 実況（実線）60m、偏差（破線）30m）
陰影域は負偏差

地 点 名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数	日照時間(平年比)		階級	降雪深さ(平年値)	階級	最深積雪(平年値)	階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)		≥1mm	(h)	(%)		(cm)		(cm)	
那 霸	18.4	(-0.2)	○	113.0	(71)	○	14	135.1	(124)	+	-	(-)	-	(-)
名 護	17.6	(-0.8)	-	201.0	(125)	+	14	131.9	(140)	+*	()	()	()	()
久 米 島	18.1	(-0.5)	○	207.0	(104)	○	15	131.5	(137)	+	()	()	()	()
宮 古 島	19.4	(-0.3)	○	304.0	(230)	+*	14	144.0	(132)	+	-	(-)	-	(-)
石 壇 島	20.5	(-0.1)	○	171.0	(133)	+	13	112.2	(100)	○	-	(-)	-	(-)
西 表 島	19.9	(-0.3)	○	94.0	(60)	-	13	116.7	(124)	+	()	()	()	()
与 那 国 島	20.1	(-0.2)	○	178.0	(116)	○	14	90.2	(114)	○	-	(-)	-	(-)
南 大 東 島	18.8	(-0.4)	○	101.0	(112)	+	8	158.4	(109)	○	-	(-)	-	(-)

(注) 1. 年平値は 1971～2000 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+ : 高い (多い) ○: 年平並 - : 低い (少ない)

各階級の区分値は、1971～2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が 10 個ずつになる）ように決めた。

また、値が 1971～2000 年の観測値の上位または下位 10% に相当する場合には階級の「+」に * を付加した。この場合には

かなり高い (多い)

かなり低い (少ない)

と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ（日別値）に欠測等が含まれていることを示す。) 付きの値（準完全値）は通常のものと同様に扱うことができるが] 付きの値（資料不足値）については、値の下に記載した統計日数（統計に用いた、品質が十分な日別値の数）を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

6 順位更新表 2006 年 3 月

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記錰は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃ (西暦年)	開始年	平年値 ℃
1	釧路	0.6 =	+2.2	0.6 (2002)	1910	-1.6
3	浦河	1.8 =	+1.7	1.9 (2002)	1927	0.1

月平均気温低い方からの順位更新

3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
3	富山	240.5	165	267.9 (1966)	1939	145.5

月降水量少ない方からの順位更新

3位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	屋久島	149.9	143	142.0 (1941)	1938	104.9

月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	岩見沢	104.7	61	124.0 (1987)	1947	171.0
2	浦河	129.0	64	146.1 (1966)	1927	201.5
3	北見枝幸	97.4	63	93.8 (1966)	1943	155.7
	広尾	139.9	71	136.9 (1989)	1958	196.5
	敦賀	97.0	75	82.8 (1987)	1914	128.7
3	稚内	91.0	61	86.9 (1946)	1938	148.2
	留萌	85.7	60	79.4 (1966)	1943	143.8
	小樽	87.2	63	79.8 (1949)	1943	137.9

3	室蘭	132.9	=	72	127.6 (1937)	1923	185.6
	俱知安	78.3		60	76.8 (1951)	1944	130.9

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新

順位	地点名	降雪の深さ月合計	これまでの最大	開始年	平年値
		cm	cm (西暦年)		cm
2	稚内	147	173 (1962)	1953	115
	寿都	100	107 (1994)	1953	85
3	網走	83	107 (1979)	1953	70
	根室	71 =	88 (1956)	1953	53
	紋別	91 =	107 (1979)	1956	112

月最深積雪大きい方からの順位更新

順位	地点名	最深積雪	起日	これまでの最深	開始年	平年値
		cm		cm (西暦年)		cm
2	山口	8 =	14	16 (1987)	1967	2

(注) 値の横に]がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ（日別値）に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている（資料不足値）。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計日数を参照されたい。

平年値とは1971～2000年の30年間の値を平均したものである。